

近代アメリカ家庭のエネルギー消費の歴史的分析を通してみた
アーミッシュの簡素なライフスタイルの生態学的意味
岐阜大 杉原利治、○大藪千穂

【目的】 200年以上も環境と共生してきたアーミッシュの独特のライフ・スタイルが、エネルギー消費とその環境保全に対してどのような生態学的意味をもっているかについて、平均的アメリカ人家庭との比較研究によって明らかにする。

【方法】 アメリカセンサス局のデータを主に用いて、1930年から1994年までの一人あたりあるいは一家族あたりの収入額、支出額や各種エネルギー、資源の消費量、耐久消費財の保有率を算出し、平均的アメリカ人家庭とアーミッシュ家庭の生活を比較検討した。

【結果】 大恐慌期におけるアーミッシュ家庭の収入額と支出額は、平均的アメリカ人家庭よりもむしろ高く生産的であることが明らかとなった。しかしその後は両者の差は大きくなった。つまり、近代消費社会形成の転換期である大恐慌期がアーミッシュとアメリカ人とを分岐する時期といえることができる。耐久消費財の保有率の推移をみると、30年代はアーミッシュ家庭とアメリカ人家庭では変化はなかったが、電気供給量が増大するとともに、アメリカ人家庭における耐久消費財、特に家電製品の保有率が上昇した。これに伴って住宅用の電気エネルギーの消費量の伸び率が顕著となり、自動車等の利用増と相まって化石燃料の過剰消費が引き起こされた。これに対して、アーミッシュは電気を使わず、自動車を保有せず、再生可能なエネルギーを利用するという簡素なライフ・スタイルを維持することによって、エネルギーと資源の消費を抑え、環境への負荷の少ない生活を可能にしてきた。エネルギー消費を抑制したアーミッシュのライフ・スタイルは、現代社会が抱えている環境問題を解決する1つの糸口となるであろう。